

化学肥料
節減対象農薬
不使用

『コウノトリ呼び戻す農法』

2026年度 特別栽培コシヒカリ(認証①)栽培ごよみ【移植】



JA越前たけふ
丹南農林総合事務所
越前市南越前町特別栽培
農産物生産者協議会

月旬別	4月			5月			6月			7月			8月			9月	9月~10月	11月~
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬		
時期			育苗期		田植期、活着期		有効分げつ期		無効分げつ期		幼穂形成期		出穂期		登熟期	収穫期	土づくり	農閑期
水管理	耕起	早期湛水	荒代掻き	植代掻き	田植え	徐々に湛水 10cm程度の浸水管理				生き物調査	(現地検査)		(現地検査)		稲わらの鋤き込み 作土深15cm以上		湛水管理 2か月以上	
施肥				基肥 オーガニック742 50kg/10a または 夢ぼかしペレット 60kg/10a					追肥 (1回目幼穂長2mm、2回目は7日後) オーガニック742 25kg/10a(2回目も同量) または 夢ぼかしペレット 30kg/10a(2回目も同量)									

①育苗

- 有機肥料入り床土を使用
- 播種量は80g/箱で過密を避ける
- 田植え7~10日前に液肥シープロテイン20倍液0.5L/箱施用

②田植え

- 代掻き後3日以内に田植え
- 2~3本/株で植える
- 栽植密度は50~60株/坪
- オーガニック742 50kg/10a
又は、夢ぼかしペレット60kg/10a

③田植え後

- 抑草のため田植え後3日以内に米ぬかを80kg/10a又は、秋津洲を50kg/10a散布
- 5cm程度の浅水管理で分げつ促進。徐々に湛水し10cm程度の深水管理へ
- 田植え後1か月を目安に田干し
- 除草機等で除草

④中干し前後

- 茎数は25本/株あれば十分
- 中干しの延期(7日程度)
- 生き物調査を実施
- 除草機等で除草
- 施肥管理機等で追肥

⑤登熟~収穫期

- 胴割米対策として収穫直前まで間断通水
- 適期刈取(籾水分25%以下、青割割合10~15%)

⑥収穫後、農閑期

- 9月中旬にケイカル200kg/10a、米ぬか100kg/10aを散布、耕起し稲わらの分解促進
- 11月~3月まで冬季湛水(ふゆみずたんぼ)実施

除草のポイント

<代掻き>

- 5月上旬に荒代掻きを行う(雑草を浮かせて流すイメージ)
- 5月中旬に植代掻きを行う(深水状態で浅く代かき)(荒代かき後に生える草を除草)
- 最低でも3日以内に田植え

<田植え後>

- 水田除草機を使い除草
- 田植え後7~10日後頃に実施(1回目)
- さらに7日後頃に実施(2回目)



施肥のポイント

<代掻き前>

- 有機肥料は比重が軽く、側条施肥では限界がある。代掻き前に施肥管理機で全層施肥を行い、側条施肥を減らすやり方も

